

一般選抜入学試験 2005年度入学試験概要

	試験日	教科	科目
全学部同一日程方式	2月4日(金)	外国語	英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング
		国語	国語Ⅰ、国語Ⅱ
A方式	2月6日(日)	外国語	英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング
		国語	国語Ⅰ、国語Ⅱ
B方式	2月8日(火)	数 学	数学Ⅰ、数学A(数と式および数列)
		外国語	英語Ⅰ、英語Ⅱ、リーディング、ライティング
		国語	国語Ⅰ、国語Ⅱ
		地理歴史または公民または数学	日本史B、世界史B、政治・経済、数学Ⅰ、数学A(数と式および数列)から1教科

文化情報学部のQ & A

Q 「文理融合」の学部とはどのようなものですか?

A 人文・社会科学を学問対象とする「文系」と自然科学を学問対象とする「理系」には、それぞれ伝統的な思考方法、研究方法があります。「文理融合」の学部とは、文系、理系の思考方法や研究方法を複眼的に用い、両者を融合して、新たな知の体系を構築することを目指す学部です。

Q 高校で理系コースを選択し、勉強していますが、文化遺産に興味がわいてきました。歴史の知識などに不安がありますが?

A 文化情報学部は文系、理系の枠にとらわれない新しい学部を目指しています。文化に対する興味は、文化情報学部での学習に、重要な要素の一つです。理系コースで学んでいることは不利になりません。

Q 数学や物理が苦手なのですか?

A 大丈夫です。文化情報学部では、文化や情報に興味を持っている受験生にチャレンジしてほしいと考えています。従って、「数学」を必修とする入学試験のほかに、文系を目指す受験生を対象にした「数学」を必修としない入学試験も実施する予定です。

Q 文化情報学部は文学部や理工系情報学部とどう違うのですか?

A 文学部は文学や哲学など人文科学の分野について、また、理工系情報学部は、情報科学にかかわる分野について、それぞれの専門分野を中心に学びます。これに対し、文化情報学部は、情報科学の基礎を学ぶとともに、人文・社会科学系の学問分野、特に、さまざまな文化を対象に自然科学系の研究手法を適用して深く理解していくなど、従来の学部の学問領域を超えて、新しい学問分野を開拓していく学部です。

Q 将来、どのようなところで活躍できるのですか?

A 文化情報学部の教育では、文化に関する知識、情報科学に関する基本的な知識と情報分析能力、問題発見・解決能力、そして論理的思考法を涵養することを目指しています。これは業種を問わず一般社会で要求されている能力です。将来は企業、中央官庁、地方公共団体などあらゆる分野で活躍が期待されます。

Q 大学院を目指したいのですが?

A 大学院でさらに研究を進めたい人に向けて、基礎学力と高い外国語能力などを身につけるための科目も設置しています。大学院進学を志す学生に十分なケアができるよう、しっかりと履修指導していきます。また、大学院の研究科の設置も計画しています。

文化情報学部のQ & A

同志社大学

文化情報学部設置準備室

〒610-0394 京田辺市多々羅都谷1-3
TEL.0774-65-7610 FAX.0774-65-7618
<http://www1.doshisha.ac.jp/~bnkjoho/>

京田辺キャンパスへの主な交通案内と所要時間の目安

- 大阪、梅田、北新地から
JR環状線「大阪」から「京橋」へ約10分 → JR学研都市線で「同志社前」へ約40分(京橋～京田辺間急行利用) → 徒歩約10分。
または、JR東西線「北新地」から「同志社前」へ約45分 → 徒歩約10分。
- 京都から
近鉄京都線「京都」から「興戸」へ約25分(京都～新田辺間急行利用) → 徒歩約15分。
- 奈良から
近鉄奈良線「西大寺」乗りかえ、近鉄京都線「興戸」へ約25分 → 徒歩約15分。



<http://www1.doshisha.ac.jp/~bnkjoho/>

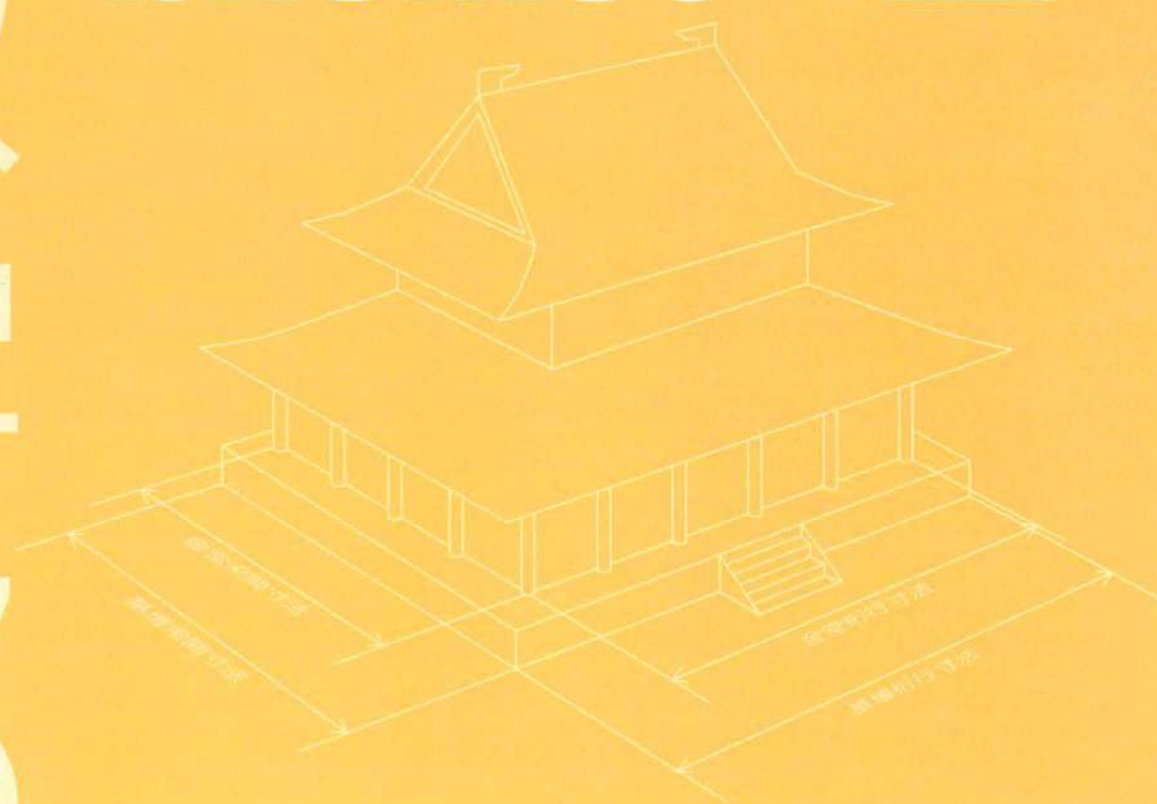
2005年4月開設

同志社大学

データから「文化」を学ぶ

doshisha
Faculty of Culture and Information Science

doshisha



文化情報学とは？ データサイエンスとは？

複雑であいまいな情報を適切に抽出、分析して「文化」の本質を探る。

文化情報学部は、芸術や文化遺産、言語だけでなく、人間の営みすべてを「文化」ととらえ、適切な情報を収集・分析する方法を学ぶ、新たな学問の場です。

人文・社会科学系のテーマに、データによって事象の理解を試みる

「データサイエンス」という自然科学的な研究手法を使い、文理融合型の新しい学問分野を開拓していきます。

現代は、さまざまな文化的背景、歴史的背景、価値観を持つ人々が、お互いを理解することが求められる時代。

文化情報学部の学びによって得られる「文化」に対する新しい見方と、高度な情報分析能力は、社会に強く求められています。

DATA SCIENCE

■文化情報学部 2005年度着任の主な教員と、主な担当科目

村上 征勝	文化情報学	鋤柄 俊夫	文化財解析
片山 徹	意思決定の数理	沈 力	言語解析応用
北尾 謙治	アカデミックリーディング	下嶋 篤	映像解析
矢野 環	伝統文化論	星 英仁	言語と脳科学
川崎 廣吉	現象と数理Ⅰ	宿久 洋	定性的データ分析Ⅰ／Ⅱ
浦部治一郎	現象と数理Ⅱ	福田 智子	文献解析
金 明哲	計量言語学	杉尾 武志	人間の情報処理Ⅰ／Ⅱ
田口 哲也	比較文化論	伊藤 紀子	言語行動論
山内 信幸	言語解析入門	津村 宏臣	行動計量学
高橋 美都	音楽解析	阪田真己子	身体論

このほか、文化情報学実験・演習、コロキウム、卒業研究、プロジェクトなどの科目は全員が担当します。

データサイエンスで 「文化」を学ぶ

「データサイエンス」ということばを聞いて「難しい」と感じるかもしれませんが。私はさまざまな文化を統計的手法で解析する、データサイエンスの研究に携わってきました。そして、この方法によって定説をくつがえす新しい発見や、新しい解釈が生まれるすばらしい瞬間にたびたび出会いました。そんなデータサイエンスの魅力や面白さを、私の取り組んでいるいくつかのテーマから、紹介してみましょう。

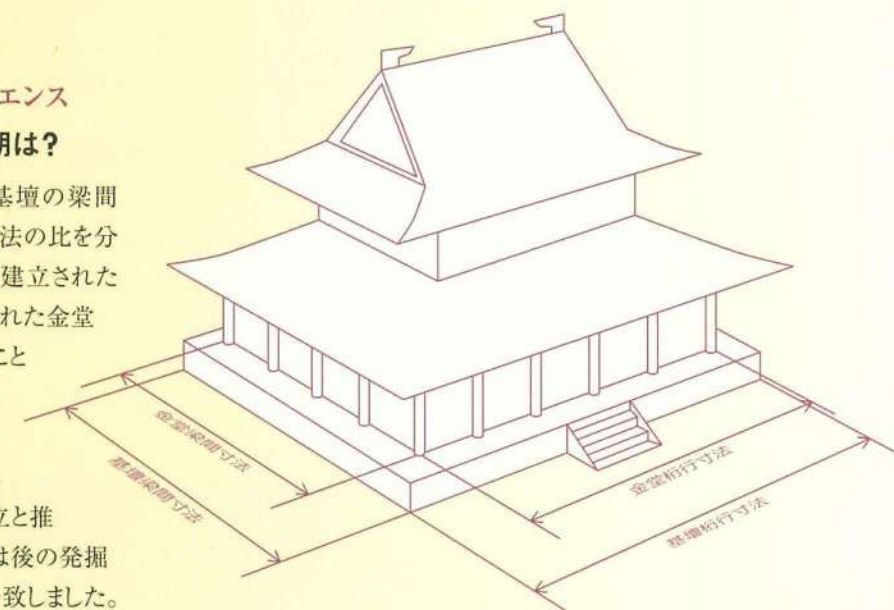


文化情報学部 設置準備室 教授
村上 征勝

●建築×データサイエンス

薬師寺の建立時期は？

古代寺院の金堂基壇の梁間方向と桁行方向の寸法の比を分析すると、5、6世紀に建立された金堂と8世紀に建立された金堂では比の値が異なることがわかります。建立時期が問題となっていた薬師寺はこの比の値からは8世紀建立と推定されましたが、これは後の発掘から得られた結果と一致しました。



●文学×データサイエンス

「源氏物語」54巻はすべて紫式部の作？

「源氏物語」の最後の10巻「宇治十帖」は名詞や助動詞の使用率がそれ以前の44巻と異なります。何かの理由で紫式部の文体が変化した？ それとも、「宇治十帖」の作者は別人？

●心×データサイエンス

「心」を計る

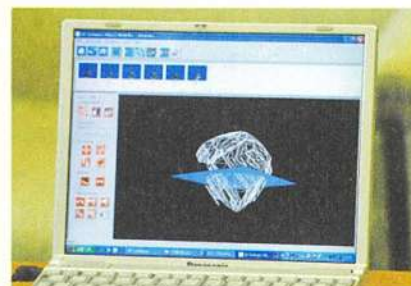
日本人のものの考え方の変化や、東南アジアの人々との考え方の違いなどを、意識調査データから探ります。どこが似ていてどこが違うのかを客観的に把握する。このことは外国の人々と交流する上で、また異なる文化を理解する上で重要であると思っています。

いろいろな文化現象に興味があって、それを解明したいと思っている人、あるいはデータサイエンスそのもの＝「あいまいな対象をどうやって分析するか」に関心がある人に入学してもらいたいと思っています。社会に求められるのはそれを的確に処理し、分析できる能力、スキルです。私たちと一緒に定説をくつがえすような新しい発見にチャレンジしてみませんか？

なぜ、今文化情報学なの？

コンピュータの著しい性能向上でさまざまな分野においてデータサイエンスによる情報分析が可能になりました。

「文化」をデータによって分析することで、高度な実務に耐えうるコンピュータスキルを身につけるだけでなく、どのようにデータを収集するのか、どのように分析するのか、といった論理的思考法に基づいた情報分析能力を身につけることができます。



新しい「文化」へのアプローチ — データサイエンスの現場から



歴史資料館 助教授
鋤柄 俊夫

●文化遺産は情報のかたまり

遺跡や寺社をはじめとして、全国には私たちの歴史を物語るさまざまな文化遺産が残されています。しかしその種類と量は膨大で、そのままではすべてを客観的に整理・研究することができません。現在の文化遺産研究に求められているのは、この膨大で多彩な文化情報を総合的に分析・解釈することです。

●仮想時空間クリエイター

そこで登場するのが文化財解析です。リアルな文化遺産をデジタル化し、インターネットも駆使してデータベースを作成します。そして個々のデータの意味を考えながらそれらをヴァーチャル空間に配置します。見えない過去は、この方法によって詳細に客観的に、そして臨場感をもって甦ります。



ヴァーチャル空間に配置されたデータから、新たな情報が見つかる。



京田辺キャンパスに残る、実際の古墳「下司古墳」。

●原動力は人間への好奇心と探求心

京田辺キャンパスは、文化遺産の宝庫である京都・大阪・奈良から等距離にあたる絶好の場所。リアルな文化遺産に触れながら、デジタル化と分析を経て、それらを現代社会に活かす方法についても学んでもらいたいと考えています。デジタルですが、キーワードは人間の無限の可能性に対する探求心と好奇心。一緒にこの新しい研究に挑戦しましょう。

この新しい学問の未来図を描くのはあなた

徹底した少人数教育 ●文化情報学実験・演習

文化情報学部が目指しているのは、先生と学生との関係が近くなる教育。少人数教育の中核となる「文化情報学実験・演習」、「卒業研究」、「コロキウム」、「プロジェクト」では、専任教員全員が担当し、きめ細やかな指導を行う予定です。



先輩と後輩が授業の場を共有 ●コロキウム

1、3、4年次生が同じグループに所属する発表、討論の場「コロキウム」。1年次生にとっては研究の進め方などを知る機会となり、4年次生は1年次生にも理解できるプレゼンテーション能力を磨く場になります。学年の異なる学生が集い、人間関係も深まる学問の場です。



複数の先生と共同研究 ●プロジェクト

専門分野が異なる複数の教員の指導により、希望する一つのテーマについて研究していきます。多様な考え方を持つ人と連携して、共同研究を行う喜びを知ることができます。

最先端のIT環境整う、恵まれた学びの場所

■京田辺キャンパス

さまざまな研究機関が立ち並び関西文化学術研究都市の中核に位置する京田辺キャンパス。79万m²の広大な敷地にマルチメディア施設が並び、求める情報を、すばやく、的確に取得できる環境が整っています。また、工学部、理工学研究所、言語文化教育研究センター、および歴史資料館などとの積極的な連携により、新しい文理融合型の教育研究が期待されます。



夢告館完成予想図

文化情報学部の新設に合わせて、京田辺キャンパスに新校舎・夢告館が完成する予定です。



情報メディア館

今出川キャンパス・他大学などと結んだ授業が可能な「遠隔講義室」や、書が数かれた「情報道場」など、個性あふれるIT実習教室がそろっています。



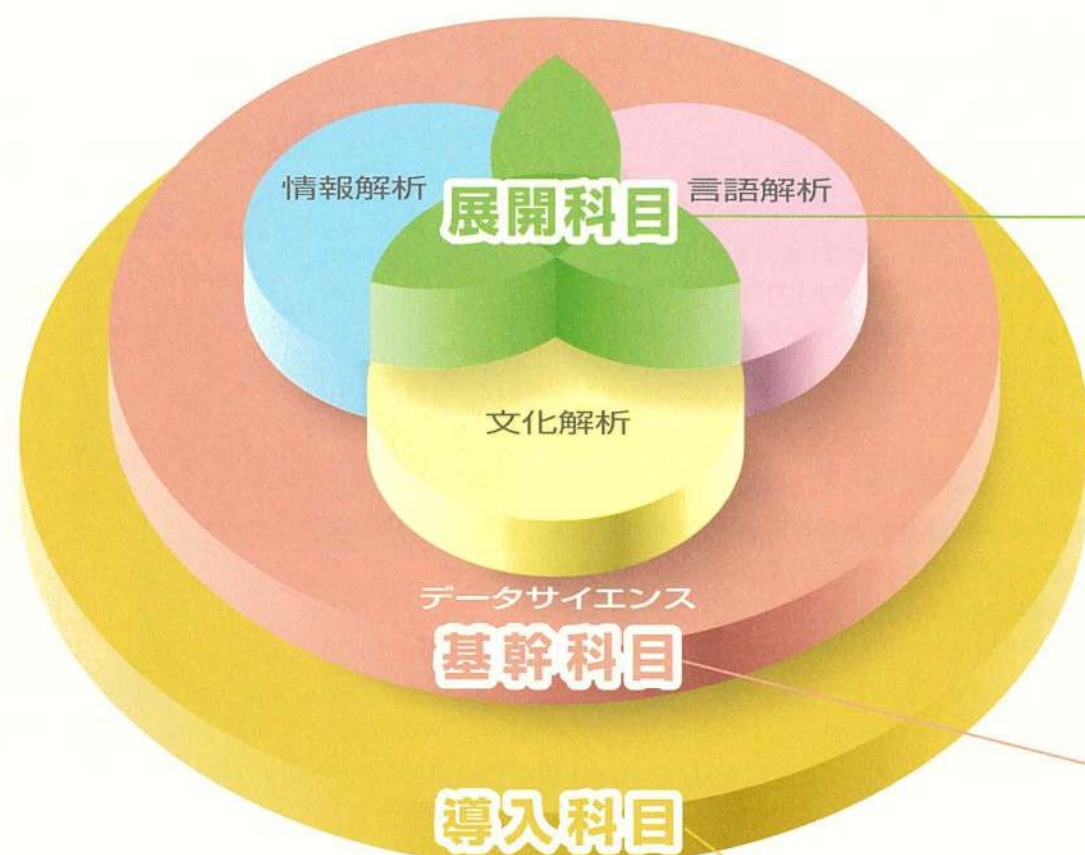
ラーネット記念図書館

図書・雑誌などの図書資料はもとより、CD-ROMやオンラインデータベース、マルチメディア資料など、多岐にわたる情報源を利用できます。

INFORMATION

学部名：文化情報学部
構成：1学科制(文化情報学科)
開設：2005年4月
学位：学士(文化情報学)
定員：1学年250名
教員：25名
校地：京田辺校地

段階的に学びを深める 3つの科目群



展開科目	卒業研究Ⅰ／Ⅱ、コロシアムⅢ 文化情報学実験・演習Ⅲ（A）／Ⅲ（B）／Ⅳ（A）／Ⅳ（B） プロジェクトⅢ／Ⅳ
基幹科目	文化情報学実験・演習Ⅰ／Ⅱ、コロシアムⅡ、プロジェクトⅠ／Ⅱ 人間とコンピュータ、社会とコンピュータ、データベースシステム、ヒューマンコンピュータインタラクション 確率・統計、現象と数理Ⅰ／Ⅱ、数理モデル、時系列解析 社会調査法、定量的データ分析Ⅰ／Ⅱ、定性的データ分析Ⅰ／Ⅱ、意思決定の数理 eラーニング、人間の情報処理Ⅰ／Ⅱ、感性情報解析、翻訳解析 文献解析、文化記号論、文化解析Ⅱ、芸術解析、身体論、比較文化論、伝統文化論、文化財解析、音楽解析、映像解析 言語解析入門／基礎／応用、多言語処理、数理言語学、言語行動論、ことばと認知、言語と脳科学、計量言語学
導入科目	情報倫理、知的所有権、コロシアムⅠ、プロジェクトスタディ入門 プログラミングⅠ／Ⅱ、データサイエンス入門／入門演習／基礎／演習 文化情報学、トピックスⅠ～Ⅵ コンピュータの仕組み、インターネット技術 情報基礎論、行動計量学、人間と情報、人間と文化、文化解析Ⅰ
教養教育科目	世界の諸言語、ことばの科学、英語プレゼンテーション、アカデミックリーディング、アカデミックライティング 論理と数理、数学入門、数学基礎Ⅰ／Ⅱ、代数学、幾何学Ⅰ／Ⅱ 外国語科目、全学共通教養教育科目、保健体育科目、免許関連科目、学際科目、他学部設置科目 同志社女子大学／大学コンソーシアム京都単位互換科目

こんな学びがみなさんを待っています

文化はどのようにして世界に広まるのか、文化を数理モデル化して眺め、調べることができます。

文化を調べるために、コンピュータと数学を使います。コンピュータという道具をどのように使いこなすのか、数学を道具として文化の分析をどのように適用するのか学びます。

世界には、日本には、さまざまな文化があります。あなたを輝かせる文化に、ヴァーチャルな時空間で遭遇することができます。

京都は伝統文化の宝庫です。日本美術などの共通性や特殊性を、いろいろな視座で見ること、文化や時代を深く理解できます。

客観的な「理性」と比べて、主観的であるとして「感性」は軽んじられてきましたが、今、個性的な私達の「感性」が見直されています。人間の「心」のはたらきについて、最新の脳科学の知見をふまえながら一緒に考えていきましょう。

言葉ではなく身体の様子から、「なんとなく」伝わる情報の正体を探ります。

言語の研究は哲学や心理学、さらには脳科学と密接に結びついた学際的な学問領域です。人間が持っている言語能力の本質とは何か、その能力をどのようにして身につけたのか、などの問題に対するさまざまな視点からの取り組みを学びます。

コンピュータやロボットと話ができれば…。そのために必要なものは？ 夢の実現に向けて、一緒に考えます。

「ことば」にまつわるさまざまな現象をデータ分析します。データの背後にある一般的な原則にたどりつくプロセスを学びます。

情報を形にすることが「表現」です。言語や図による日常的な表現手法から、計算機を駆使したマルチメディア手法まで、人はさまざまな方法で情報を形にし、「表現文化」を作り出します。この表現文化を解析し、表現の「品質」を左右する原理を学びます。

人間との関連を考えながら、コンピュータの基礎から最新のメディアまで、それぞれの本質や得意・不得意な点を知り、効果的な利用法を学びます。

世の中には文字、音声、画像などさまざまな情報（データ）が溢れています。データ分析では、統計科学の手法を用い、これら膨大かつ多様な情報を分析、評価、判断する統計的思考力を身につけることができます。

文 理 融 合 の 学 び に 向 け て

文化情報学部では、さまざまな文化現象をデータによって理解を試みるデータサイエンスの知識と、文化に対する深い知識を修得できます。そのために、バランスのよい履修を可能とする多様な科目を用意しています。

展開科目

1年次から積み上げて修得したデータサイエンスの手法で、多様な文化事象を解明していく科目が展開されます。文系、理系の垣根を超えた融合的科目で卒業研究をさらに高いレベルに導きます。

基幹科目

さまざまなタイプのデータを正しく収集、分析し、新しい情報や知識を創り出すこと、そこから解明される文化への深い理解に重点を置きます。自分の志向、適応に合わせて、文化やデータサイエンスの素養を身につけることができます。

導入科目

データ解析のツールとなるコンピュータやインターネット、情報倫理や知的所有権に関する科目、データサイエンスの基本的な知識修得の科目、そして文化に関する興味深いテーマで展開されるトピックスなどで構成されます。皆さんの知的好奇心をくすぐる刺激的な講義からデータサイエンスの学びがスタートします。

教養教育科目

同志社大学は2005年4月、9つの学部を擁する総合大学となります。全学共通教養教育科目のほか、他学部設置の科目や他大学の単位互換科目を教養分野で履修することが可能です。

Pick Up Curriculum

- 「プロジェクト／情報メディアコンテンツ」(例)
情報機器の発達に伴う情報化社会の高度化によりマルチメディアを活用した情報表現が社会全般に広く行き渡っています。このプロジェクトではWeb上で発信されている各種の情報コンテンツ、例えば、e-learningや広告、ホームページなどについて調査・収集を行い、データベースの作成を行います。データベースの作成はコンテンツの収集を行うだけでなく、それらの比較・検討や整理・分類が可能となる形を考慮し、Web文化の解析を目指します。

Pick Up Curriculum

- 「音楽解析」(例)
人はなぜ、音に対して「癒し」の感情を持ったり、「陶醉感」に浸ったり、精神の「高揚感」を得たり、「不快感」を感じたりするのでしょうか。音に関する情報をどのように解析するかについて、伝統音楽、民謡、ポップミュージックなど、さまざまな音楽文化の素材を扱っていきます。

Pick Up Curriculum

- 「トピックス1／科学技術と社会・文化」(例)
近い将来、ロボットが社会や家庭へ導入され、私たちの身近な存在になると予想されています。ロボットが私たちの社会に入ってくる場合、どのような機能が求められているのでしょうか、またコミュニケーションなど人間とロボットの関係はどのようになるのでしょうか。このロボットをテーマに、科学技術と社会・文化の変化・進化についてさまざまな側面から考えていきます。

デ ー タ サ イ エ ン ス が 活 か せ る 未 来 へ

文化情報学部は「特定の分野にかたよらない」「柔軟な発想のできる」「広い視野を持った」人材の育成を目指しています。研究を通じて身につく「文化」に対する新しい見方と、コンピュータを使った情報分析能力は、社会でも大いに期待されている能力です。

●文化に対する新しい見方を活かす

- 新聞社、テレビなどのマスコミ関連
- 博物館、埋蔵文化センターなどの学芸機関
- メーカーなどの調査部門、マーケティング部門
- 国際的活動を行う政府機関、多国籍企業 など

●高度なデータ分析能力を活かす

- 商社、銀行などの情報分析部門
- 多量のデータを基に業務を行う官庁、地方自治体
- シンクタンク、コンサルティングなどの社会調査関連業 など

●データサイエンスの手法を修得した上で 更なる研究を目指す

- 大学院進学 など

資格取得の要望にも対応します(予定)

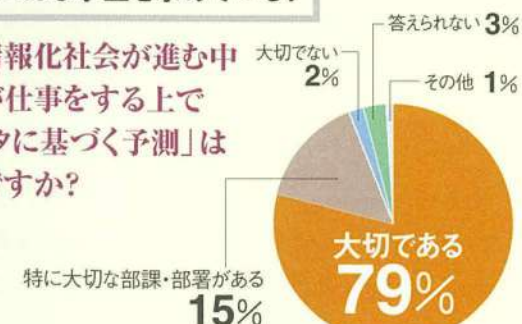
- 中学校・高等学校で教えることができる教育職員免許「数学、情報(高校のみ)」
- 博物館などで業務に携わることができる博物館学芸員資格
- ◆情報処理技術者試験にも対応可能な知識が身につくカリキュラムです。
- ◆所定の科目を履修すれば社会調査士に認定される予定です。

「社会調査士」って、どんな資格?

社会調査の水準向上を目的として、調査を正しく評価できる人材、調査を正しく実施できる人材を育成するために、日本社会学会、日本行動計量学会、日本教育社会学会によって、社会調査士資格認定機構が発足しました。所定の科目を履修して申請すれば、学部卒業時に「社会調査士」の認定が受けられる予定です。

企業はこんな学生を求めている!

高度情報化社会が進む中
社員が仕事を
「データに基づく予測」は
大切ですか?



出典:日本数学教育学会・研究論文誌「企業から見た数学教育の重要度」より

同志社大学卒業生からのメッセージ

文・理バランスのよい学びは 就職の選択肢を広げるはず

同志社大学 文学部卒
住商情報システム株式会社 勤務
竹入奈津子さん



国文学専攻からコンピュータのシステム会社に就職しました。思考回路が完全に文系だったので、初めは非常に苦労しました。文系、理系の知識、感覚のバランスがよいと将来の選択肢が広がると思いますよ。仕事によっては他の部署、さらには他社から人を招いて一つのプロジェクトをこなします。そこではリーダーが誰、自分の役割はこれという認識、他人との距離感、チームワークが重要です。学生ではなかなかつかめないそんな感覚を、勉強を通してつかめる「コロシアム」の授業はいいですね。私の時代にはなかった、情報メディア館や新校舎などの最先端の施設もうらやましく思います。

社会で必要なのは単純な技術より 思考力、判断力、そして発想

同志社大学 文学部卒
株式会社FM802 勤務
豊田 玄さん



現在、FMラジオ局でホームページなどのコンテンツ制作を担当しています。現場では“ブレがない”自分の基本姿勢、そして物事の善し悪しの判断が重要です。ですから皆さんには、大学時代には、好きなことを徹底的にやる中から、確実な「思考力」「判断力」を確立してほしいですね。さらに、インターネットによる世の中の変化は、明治維新ぐらいの大変革です。アイデアやビジネスモデルが、若い人からしか出てこない時代がくるかもしれません。そんな時代を生き抜ける「発想」が出せるか。この学部の文理バランスのよい講義・演習から「思考力」「判断力」、そして「発想」を養える可能性が充分あるように思います。